

鹿児島島の動物 50

## 動物のエイリアン

動物担当 上舞 哲也

企画展「ひょっこりエイリアン」では、人間の活動に伴い、それまでその生き物が生息していなかった場所に持ち込まれた生き物である外来生物（=エイリアン）を紹介しています。今回は、県内の動物の中で外来生物にあたるものを、いくつか紹介したいと思います。

### 近くにいるエイリアン



カワラバト



ウシガエル（環境省提供）

公園などでよく見かけるドバトは、ヨーロッパをはじめとするユーラシアに生息するカワラバトが、伝書鳩やレース用として日本に持ち込まれたもので、飼育個体が逃げ出して野生化した外来生物です。身近な鳥類ですが、糞が問題になる場合があります。

また、川で「ウォー、ウォー」と低い声で鳴くウシガエルも外来生物です。1920年前後にアメリカから食用として持ち込まれた個体が、野生化したもので、県内の川や池でも頻繁に見ることができます。体長が20cm近くになるため、他のカエルとの競争において有利な立場にあると考えられ、在来のカエルの減少が心配されています。

### 絶滅危惧種なのにエイリアン



指宿市で見られるオキナワキノボリトカゲ

オキナワキノボリトカゲは、奄美以南の地域に分布するトカゲです。生息地では外来生物であるマン

グースやノネコなどの捕食により、個体数が減少したため、絶滅が危ぶまれており、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

そのようなキノボリトカゲですが、本来生息していないはずの屋久島や指宿市、宮崎県の日南市で生息が確認されています。指宿市の例では、沖縄や奄美の亜熱帯植物が運ばれてきた際に紛れ込んだのではないかと考えられています。

このような今でいなかった生物が入り込むと、その地域の生態系に影響を与えることとなります。また、今後、温暖化が進むと周辺地域への拡大が心配されます。

### 捕獲排除されたエイリアン



ファイリマングース（環境省提供）

1979年に奄美大島ではネズミ・ヘビ類の駆除を目的にファイリマングースが放されました。しかし、当初の目的は達成されず、しばらくすると、繁殖したマングースによる農作物の食害被害が起こるようになりました。さらに島内に分布域を広げたマングースはアマミノクロウサギなどの哺乳類、ルリカケスなどの鳥類、両生類、は虫類、昆虫などを捕食し、在来種の減少を引き起こしました。

そこで、2005年から地域住民や研究者からなる「奄美マングースバスターズ」がマングースの捕獲排除を始めました。10年以上を経過した現在では部分的な排除や在来種の回復などの成果を収めることができている。このような成果を収めた事例は世界的に見ても数例しかなく、外来生物の防除の参考事例として世界的に評価されています。